

報告番号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	松 田 康 平
主 論 文 題 名				
Quality of life, psychological states, and personality traits in patients with pectus excavatum (漏斗胸患者のQOL、精神状態、性格傾向に関する研究)				
(内 容 の 要 旨)				
漏斗胸とは前胸部が陥凹する先天性胸郭変形疾患であり、根治には手術治療が必要となることが多い。陥凹が高度となると肺、心、大血管圧迫による動悸、労作時呼吸困難などの症状を呈することもあるが、多くの漏斗胸患者は呼吸・循環系の症状を認めることは少ない。その一方で、多くの漏斗胸患者が自分の外観に悩み、自己否定感を持つとされ、Quality of Life (QOL) の低下を招くことが示唆されているが、それらの社会心理学的背景について客観的指標に基づき体系的包括的に検討した報告は少ない。 今回の研究では、漏斗胸手術術前患者におけるQOL、精神状態、性格傾向を包括的に評価することを目的とした。2019年7月から2021年4月に漏斗胸手術を受けた患者を対象とし、自己記入式のアンケートを用いてQOL、抑うつ、社会不安、自己効力感、性格傾向を評価した。同意の得られた129人の患者を分析対象とした。QOLは対照とする一般集団よりも社会的要素で有意な低下を認めた (41.8 ± 12.8, $p < 0.001$)。一方で、身体的要素 (54.0 ± 10.4, $p < 0.001$) および精神的要素 (53.3 ± 8.8, $p < 0.001$) は有意に高値だった。精神状態として10.9%の患者に抑うつ傾向を認め、43.4%の患者で社会不安障害が示唆された。自己効力感の有意な低下を認め (46.0 ± 11.4, $p = 0.001$)、性格傾向では外向性の面で有意な低下を認めた (46.5 ± 11.8, $p < 0.001$)。漏斗胸の重症度を示す前胸部陥凹の程度とこれらの社会心理学的指標との間に有意な相関関係は認められなかった。 今回の研究では、漏斗胸患者の社会的QOLの有意な低下を初めて示した。精神状態としては抑うつ傾向や社会不安を持つ患者が多く、自己効力感の低下も示唆された。これまで漏斗胸患者の性格傾向についての報告は少ないが、内向的な性格であることが明らかとなった。漏斗胸治療により、社交恐怖が軽減することで、これらの全般的な機能回復も見込めると考えられた。また、漏斗胸の重症度と患者の社会心理学的評価との間に相関関係が示されなかったことから、手術適応について身体的指標のみで決定すべきではないことが示唆された。				